



Our Precision, Your Advantage

## 環境・社会報告書

# 2014



Our Precision, Your Advantage

URL: [www.kyb.co.jp](http://www.kyb.co.jp)

お問い合わせ

**KYB 株式会社**

環境・安全部

〒105-6111

東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル

TEL.03-3435-6465 FAX.03-3436-6759

### 用紙での配慮



**森の町内会**  
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



**FSC 認証紙®の使用**  
適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しました。

### 印刷での配慮

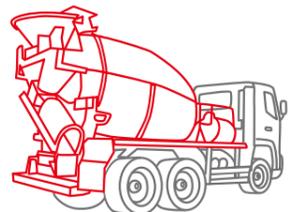
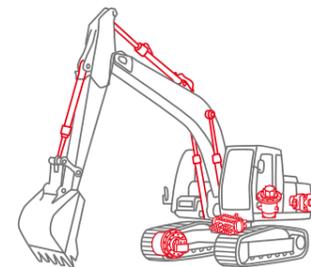
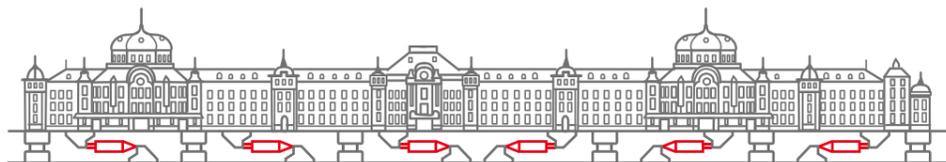


**Non-VOCインキの使用**  
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しました。



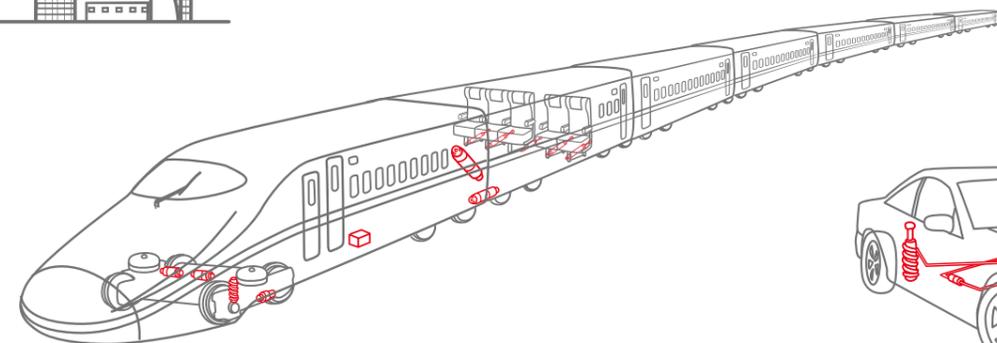
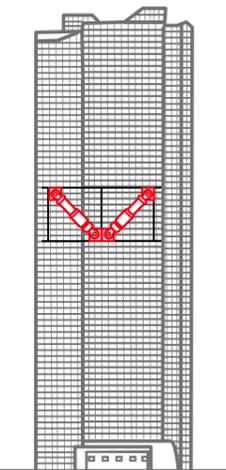
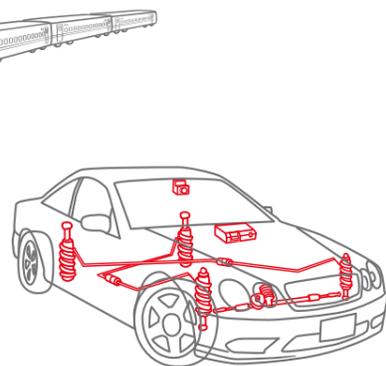
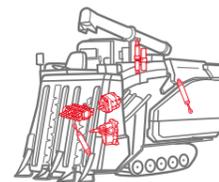
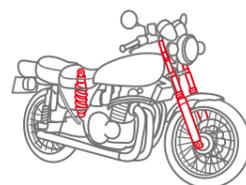
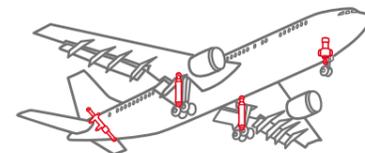
**水なし印刷**  
有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しました。





**KYB**  
Our Precision, Your Advantage

KYBグループは、  
人々の暮らしを安全・快適にする  
技術や製品を提供し、  
社会に貢献しています。



#### 編集方針

本レポートは、事業活動を行うに当たって、環境や社会に関わる情報をステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えすることを目的に発行しています。2014年度版の報告書では、環境に配慮した新しい技術や省エネ活動、地域社会との連携などについて多くの具体的な活動事例を掲載しました。また、世界中に拠点を持つKYBグループとして、海外での取り組みも随所でご紹介しています。

今後とも、よりわかりやすい報告書の編集を目指してまいりますので、ステークホルダーの皆様のご意見を賜れば幸いです。

本レポートの内容は、当社のwebサイトにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

#### 対象期間

2013年4月～2014年3月  
(一部期間外の取り組みや報告も掲載しています)

#### 対象範囲

KYB株式会社および国内外の関係会社を対象としています。  
各種の環境データに関しては、特に注記のない場合はKYB株式会社(相模工場、熊谷工場、岐阜北工場、岐阜南工場、岐阜東工場)のデータを示しています。

#### 発行時期

2014年6月(次回:2015年6月予定、前回:2013年6月)

#### 参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」などの考え方を参考に編集・作成しています。

#### 将来の見通しに関する注意

本報告書には発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた将来予測を含んでいます。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報により判断しており、諸条件の変化によって異なる可能性があります。ステークホルダーの皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。

#### CONTENTS

- 02 編集方針・目次
- 04 トップメッセージ
- 06 KYBグループ概要
- 08 KYBグループの目指す姿

#### 2013 Highlight

## 10 2013年度活動ハイライト

- 14 安心・安全で人に優しい製品

### マネジメント報告

- 16 経営マネジメント  
コーポレート・ガバナンス
- 17 内部統制/コンプライアンス

### 環境報告

- 18 環境マネジメント  
環境基本方針  
環境保全に関する目標達成状況/環境会計
- 20 環境負荷の低減活動  
事業活動に伴う環境への影響  
地球温暖化防止活動  
生産拠点活動  
化学物質の管理と排出量の低減  
廃棄物低減への取り組み

### 社会性報告

- 26 お客様のために  
お客様満足向上の取り組み
- 27 お取引先様とともに  
パートナーシップの構築
- 28 地域社会のために  
社会支援活動
- 31 従業員とともに  
人財の活用と職場環境づくり  
人財育成と技術力の向上  
従業員コミュニケーション  
安全で働きやすい職場づくり

## トップメッセージ

# 社会に貢献できる「製品づくり」と「人財づくり」のさらなる推進に向け取り組んでまいります。

### 2013年度を振り返って

2013年度のKYBグループの連結での売上高は安倍政権による経済政策(三本の矢)による円安などが寄与し、期首目標の3,360億円を上回る3,527億円、経常利益についても期首目標の166億円を上回る203億円という結果となりました。

2013年度は2011年から始まりました、3ヶ年中期経営計画の最終年でもありました。前中期計画期間は2014年度以降の成長のための種まきと基盤強化の時期と位置付け、活動を推進してまいりました。グローバルでは、メキシコに自動車の省エネ化の一役を担うCVT用ポンプ工場、インドに二輪車用サスペンション工場および特装车両工場、チェコに自動車用ばね生産工場、インドネシアに建



KYB株式会社 代表取締役社長 執行役員

伊井政夫

設機械用シリンダ工場、ブラジルに自動車用ショックアブソーバ工場を建設致しました。またロシアおよびブラジルに販売会社を新設致しました。日本国内ではカヤバシステムマシナリー(三重県)、KYBトロンデュール(新潟県)、KYB-YS(長野県)、KYB-CADAC(長野県)、KYB金山(岐阜県)の5社で新工場を建設、また岐阜地区にはテストコースおよび電子実験棟を建設致しました。これらの投資は、世界のお客様の今後のご要望にタイムリーにお応えするための先行投資であり、まさにKYBとしての基盤を作り上げるものと考えております。

### 新中期経営計画について

2014年度は新たな中期経営計画のスタートの年となります。

KYBグループを取り巻く環境に目を向けますと、日本経済の見通しは政府主導による経済政策や東京オリンピック・パラリンピックの開催と明るい材料がある一方で、この4月からの消費税増税前の駆け込み需要の反動など懸念材料もあります。また世界経済は、低迷が続いた欧米の景気に明るい兆しが見えてきたものの、中国経済の安定成長持続への懸念や、新興国経済の減速および通貨安、ウクライナやタイなどの政情不安などのリスクがあり、総じてKYBグループを取り巻く環境は楽観視できない状況にあります。

新たな中期計画では、「基盤強化」から「成長戦略」へと経営戦略を移して活動してまいります。お客様の信頼と受注を獲得するために、品質レベル、価格レベルをさらに改善し、お客様の開発タイミングを逸さないように大胆な差

別化製品を開発、提案してまいります。

また、KYBは2015年3月で創立80周年を迎えます。KYBの経営理念に地球環境との調和、環境保全を最重要テーマとした、「優しさで誠実さを保ち、自然環境を愛し環境を大切にします」があります。創立80周年を節目として、環境・安全についてもこれまで以上に力を入れ、環境面では「エネルギー・廃棄物の最少化を目指した製品づくり、工場づくり」、安全面では「労災ゼロ拠点づくり」をさらに進め、KYBグループとして社会に貢献できる活動を推進してまいります。そして将来への飛躍に向け着実に改善し続け、次世代の人に引き継いでまいります。

### KYBグループの環境への取り組み

KYBグループでは人々の暮らしに安全・快適を提供する企業として、人と地球に優しい製品づくりを進めています。例えば、強風や地震による揺れを緩衝する「制震」や地面からの振動を伝えない「免震」、これら免震製品とともにKYBグループは人々の命と財産を守る安心をお届けします。また、KYBグループの主力製品である自動車用ショックアブソーバは、多様に变化する路面状況で車の振動を制御し、操舵安定性を高め安全を支えるとともに、快適な乗り心地と安心感を提供してまいります。

また環境負荷低減の考えを工場づくりにも取り入れてまいります。KYB-CADAC新工場建設の際には、煙・悪臭・床の鉄屑・砂こぼれのないクリーンな工場にしました。また、自然換気システムの導入により工場内温度上昇の抑制や、KYBグループでのスクラップ・切粉のリサイクルシステム

を構築しました。KYB-YS新工場建設の際には、労働災害ゼロ・安全快適・省エネを重点施策とし、めっき廃液のクロージド化、ミスト・臭気・騒音対策やLED照明・太陽光発電を採用致しました。海外でも同様に環境負荷低減活動を行っており、インドネシア新工場では水性塗料採用によるVOC(揮発性有機化合物)削減などを行っております。

### 人財<sup>\*</sup>育成・小集団活動・コンプライアンス教育

持続可能な企業となり、社会に貢献し続けるためには「人財」の活躍が不可欠です。KYBグループでは性別や国籍、障がいの有無などを問わず働きやすい会社づくりを推進しております。また、継続的な人財育成を行うため、2012年度から従来の自主的な活動の場であったQCサークル活動を会社や部門の方針を受けた業務としての「小集団活動」へと活動形態を変えました。小集団活動では従来管理監督者の役割はサポート役でしたが、現在では100%指導・支援を行うよう変更し、継続して人財育成および強い組織づくりを推進しております。

また、強い組織であっても、コンプライアンスが守られなければ、企業として社会に貢献することはできません。KYBグループでは定期的にコンプライアンス研修を開催し、社会に貢献できる人財づくりを続けております。

KYBグループの環境と社会への取り組みを、本報告書を通じてご理解いただき、より多くのステークホルダーの皆様から引き続きご支援を賜れば幸いです。また本報告書に対する感想のみならず、KYBグループに対する忌憚のないご意見をお寄せください。

\* KYBでは人材を財産と考え「人財」としています。

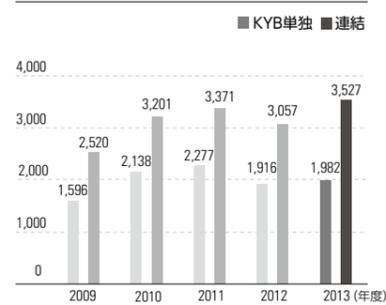
# KYBグループ概要

## 会社概要

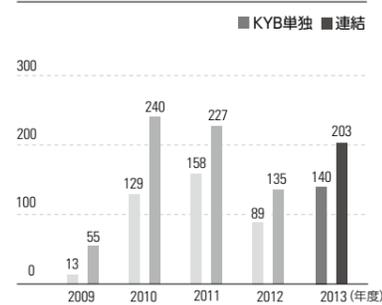
**社名** KYB株式会社(商号:カヤバ工業株式会社)  
**創業** 1919年(大正8年)11月19日(萱場発明研究所)  
**創立** 1935年(昭和10年)3月10日(株式会社萱場製作所)  
**設立** 1948年(昭和23年)11月25日(萱場工業株式会社)  
**本社** 東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル  
**代表者** 代表取締役社長執行役員 白井 政夫  
**資本金** 276億4,760万円(2014年1月1日現在)

**工場** 熊谷工場、相模工場、岐阜北工場、  
岐阜南工場、岐阜東工場  
**研究・開発センター** 基盤技術研究所、生産技術研究所  
開発実験センター、工機センター、電子技術センター  
**従業員** 13,033名(2014年3月末現在・連結)  
3,601名(2014年3月末現在・単独)

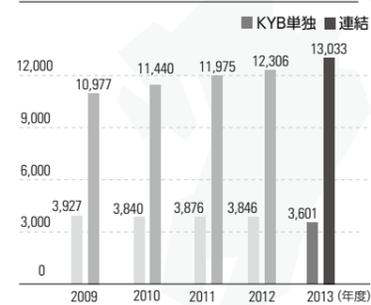
売上高の推移 (億円)



経常利益の推移 (億円)



従業員数の推移 (名)



## 主な事業内容

### AC(オートモーティブコンポーネンツ)事業

ショックアブソーバ、サスペンションシステム、パワーステアリング、ベーンポンプ、フロントフォーク、オイルクッションユニット、ステイダンパ、フリーロック

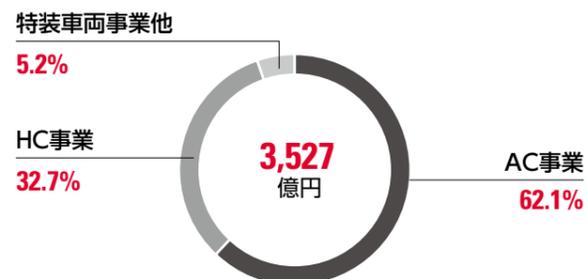
### HC(ハイドロリックコンポーネンツ)事業

シリンダ、バルブ、鉄道車両用オイルダンパ、衝突用緩衝器、ポンプ、モータ、航空機用離着陸装置・同操舵装置・同制御装置・同緊急装置

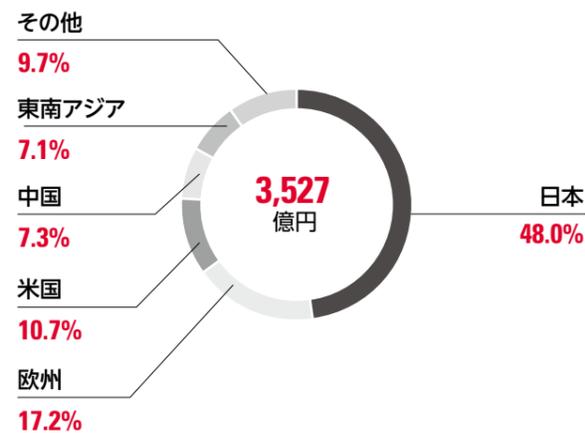
### 特装車両事業、システム製品および電子機器等

コンクリートミキサ車、粉粒体運搬車、特殊機能車、シミュレータ、油圧システム、舞台機構、艦艇機器、トンネル掘削機、環境機器、免制震装置、電子機器

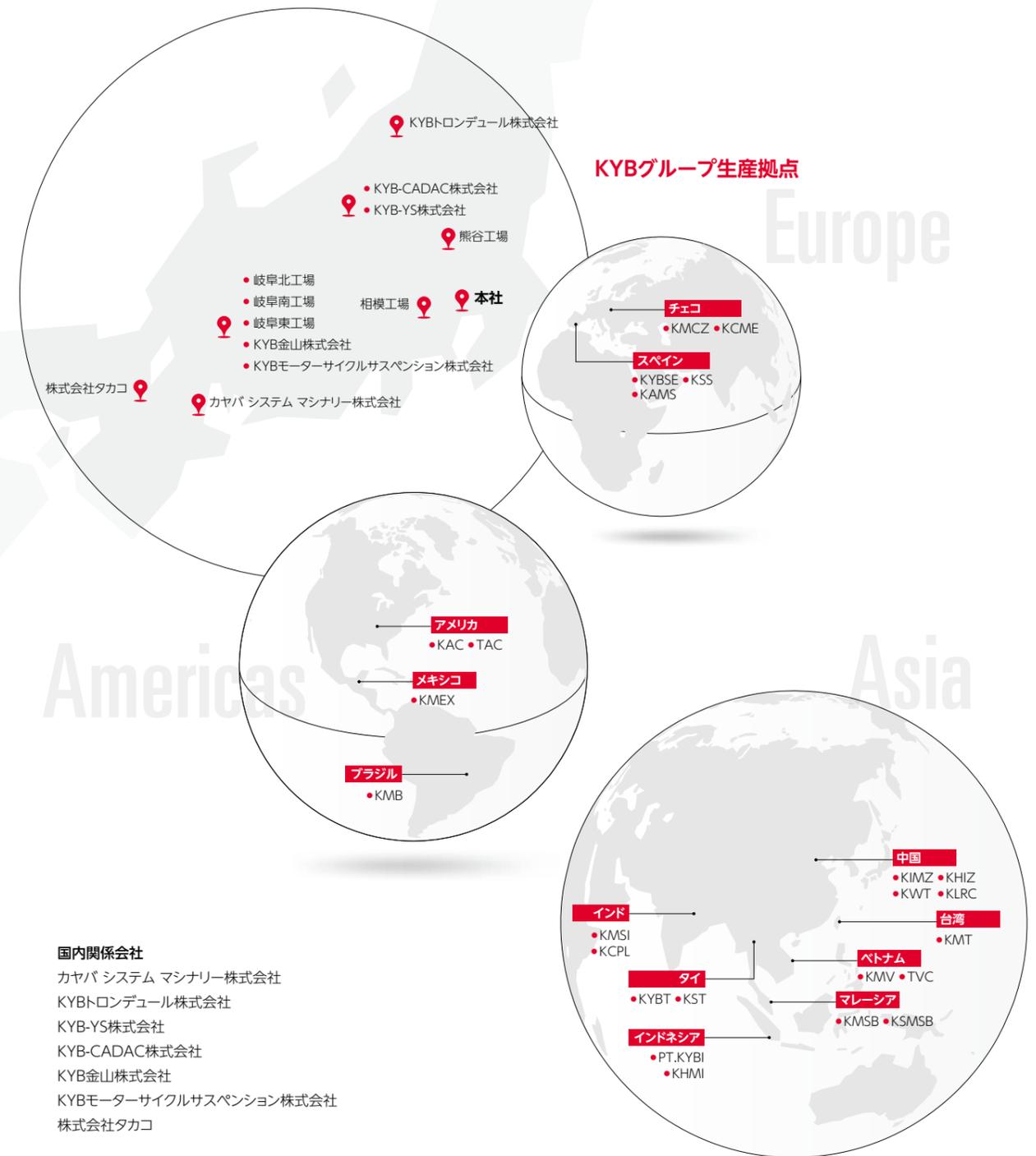
2013年度事業別売上高の構成(連結)



2013年度地域別売上高の構成(連結)



※ 記載されている売上高および対象範囲の詳細は、有価証券報告書をご参照ください。



# Our Precision, Your Advantage

企業の社会的責任がますます重要視される中、  
KYBグループではステークホルダーの皆様の満足を得られる  
企業グループとなることを目指し、  
経営理念のもと、私たち一人ひとりが企業の責任を自覚し、  
法令を遵守し行動に結びつけ、信頼される企業であり続けるために  
企業価値向上を図っていきます。

## 経営理念

人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、  
社会に貢献するKYBグループ

1. 高い目標に挑戦し、より活気あふれる企業風土を築きます。
2. 優しさと誠実さを保ち、自然を愛し環境を大切にします。
3. 常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献します。

## ビジョン

### 人財育成

方針や戦略を深く理解し、情熱をもって目標を完遂できる人財を育成する。

### 技術・商品開発

世界のお客様が感動し、安心し、そして信頼される商品を提供する。

### モノづくり

お客様が満足する商品をつくる喜びと躍動感に溢れ、同時に現場主義に徹した緊張感のある工場にする。

### マネジメント

企業の社会的責任を常に自覚し、効率のよいグループ経営を行う。

## ステークホルダーの皆様との関係

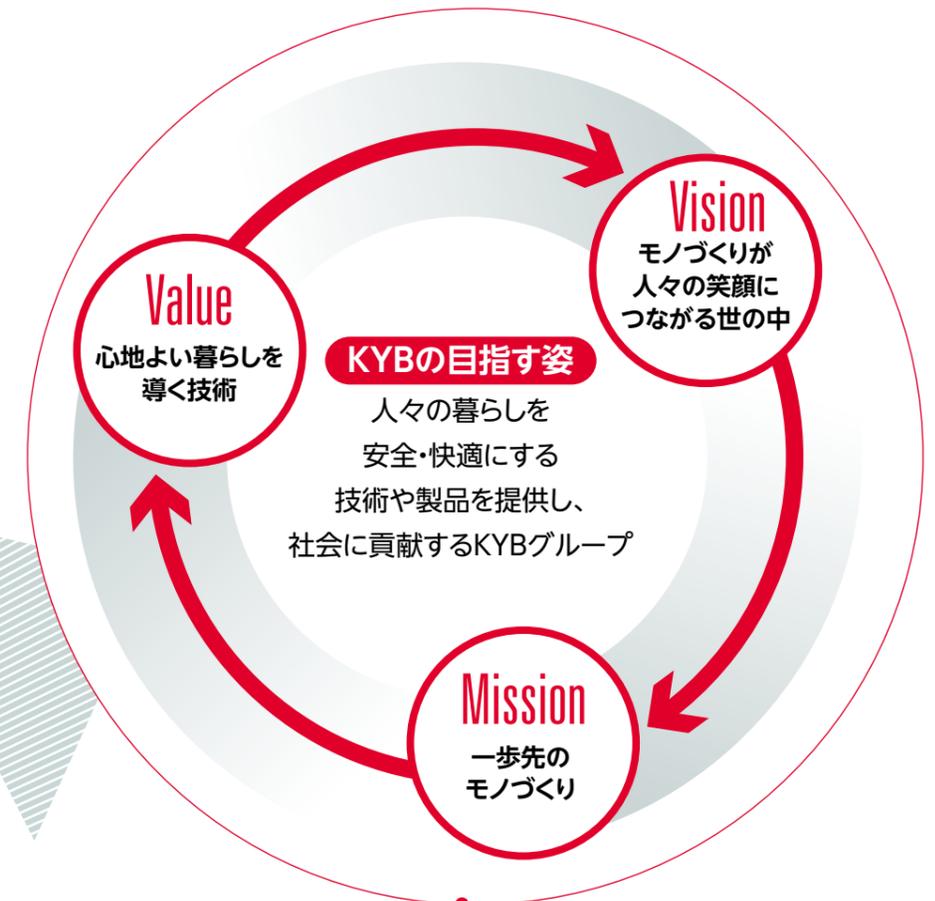


## KYBグループの社会的責任

KYBグループでは事業活動の中で常に独創性を  
追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展  
に貢献することを目指しています。

当社では経営理念とビジョンに基づいたCSR活動  
を各部署の年度実施項目に掲げ実践しています。そ  
してその行動をチェックして改善改新のサイクルを継  
続して実践しています。

従業員は当社の行動指針を携行しており、CSR(企  
業の社会的責任)の重要性の認識を深めています。



## Vision

KYBブランドが実現したい世界

モノづくりが人々の笑顔につながる世の中

KYBが目指すのは、モノづくりのよるこびが社会の発展を支え、人々の笑顔につながっていく、そんな世の中です。

## Value

KYBブランドがお届けする価値

心地よい暮らしを導く技術

感覚的価値：心地よい暮らし、モノづくりのよるこび

機能的価値：確かな品質

KYBがエンドユーザーに約束する価値。それは、独創的な技術と真摯な製品開発がもたらすワ  
ンステージ上の「心地よい暮らし」です。

KYBがお得意先様に約束する価値。それは、エンドユーザーまでも「お得意先様」と考えること  
から生み出される「確かな品質」です。

KYBが従業員に約束する価値。それは、一人ひとりが世の中を変えていくことを実感できる  
「モノづくりのよるこび」です。

## Mission

KYBブランドが果たすべき使命

一步先のモノづくり

KYBは、これまで培われてきた確かな技術力を生かして、お得意先様や市場に価値ある提案  
のできる企業であり続けます。新しい価値やかつてない満足をお得意先様に提供していくた  
めに、自らの足で、一歩先に進んだモノづくりを実践していきます。

## 行動指針

- |                |                     |                 |                    |
|----------------|---------------------|-----------------|--------------------|
| (1) 企業倫理の確立と実践 | (8) お取引先との取引        | (14) 企業秘密の保持    | (20) 安全衛生          |
| (2) お客様第一主義の徹底 | (9) 迅速な苦情処理         | (15) 個人情報の保護    | (21) 教育および能力開発     |
| (3) 製品安全の追求    | (10) 業界団体等、諸団体の活動参加 | (16) その他会社財産の保護 | (22) 差別行為の禁止       |
| (4) 適正な会計・決算処理 | (11) 反社会的勢力との決別     | (17) 地域社会との共生   | (23) ハラスメント行為の禁止   |
| (5) 情報開示       | (12) インサイダー取引の禁止    | (18) 自然環境の保護    | (24) 児童労働、強制労働の禁止  |
| (6) 法令の遵守      | (13) 知的財産権の保護       | (19) 労使協調       | (25) 良好な職場環境の維持・改善 |
| (7) お客様との取引    |                     |                 |                    |

# 2013年度 活動ハイライト

KYBグループは油圧技術を核に、電子、制御などを複合した技術開発と製品を提供し、さまざまな分野のお客様の幅広いニーズにお応えします。  
今回のハイライトでは安全に関わる製品と環境負荷を低減した新工場を紹介します。

制震用オイルダンパ

## Highlight 01



虎ノ門ヒルズ外観

### 虎ノ門ヒルズにKYBの制震用 オイルダンパを516基設置

— 地震から命と財産を守る緩衝器技術

新橋・虎ノ門エリアに、地下5階、地上52階の超高層ビル「虎ノ門ヒルズ」が2014年6月オープンしました。虎ノ門ヒルズは商業施設、オフィス、ホテル、住宅等が設けられた複合施設で、自然エネルギーの活用や、照明・空調設備等の省エネ・省資源化を図り、環境配慮と高い耐震性を誇ります。この虎ノ門ヒルズの耐震性能を支えているのが、KYBの制震用オイルダンパです。今回、当社製の中で最大容量のBDH2000型オイルダンパが516基設置されています。このダンパは、小さな揺れから大きな揺れまで制震力を発揮し、風揺れ時や、中地震・大地震時のビルの揺れを抑制することができます。このような建物・設備を守り、利用者の安心・安全・快適性を確保するため、KYBの緩衝器技術が役立っています。



オイルダンパ

### 省電力と環境に配慮した 電子実験棟

— 電子・電気実験の  
設備と人員を集約

電子実験棟は、KYB初となる大型電波試験設備の導入に際し、当社の電子・電気実験の設備と人員を集約するために、2013年8月に着工、2014年2月末に竣工し、4月初旬より本格運用を開始しています。電子実験棟は、自然豊かな岐阜県山間部のKYB開発実験センターに位置しており、環境の保護には特別な配慮を行っています。まず主たる電波試験設備は、世界最高レベルの電波遮断特性の暗室を採用し、試験時の使用電力も、アンプの共用化、アンプ～アンテナ間のロスを最小限に抑える設備配置等により、省電力化

を図っています。また事務所では、天井部への遮熱シートの採用、スカイライトチューブの採用、高反射率パネル+パンチング穴加工採用のブラインドによる自然光の取り込み等、積極的な省電力化を推進しています。今後は電子実験棟での製品評価を通じて、環境に優しいKYB電子製品の開発を進めていきます。



電力を使わず太陽光を照明に  
スカイライトチューブによる採光  
●省エネルギー／環境に優しい  
●災害に強い ●演色性が高い(ありのままの色をうつす)

## Highlight 02

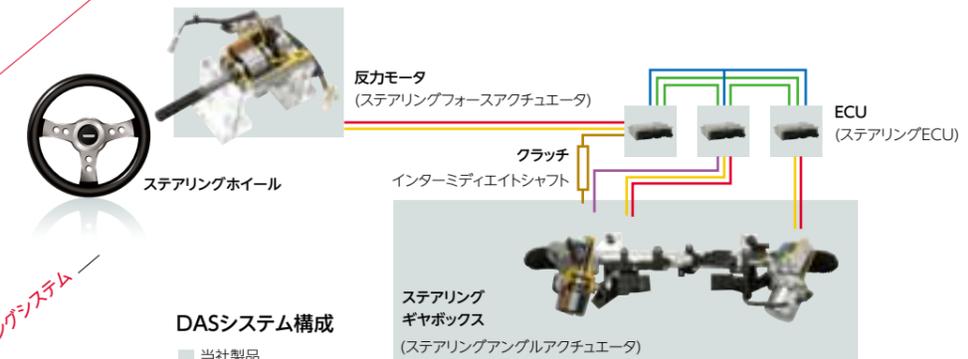
電子実験棟外観



電子実験棟

### 高出力、 安全性を確保した 新開発のステアリング製品

ダイレクト・アダプティブ・  
ステアリング向けシステム



DASシステム構成  
■ 当社製品



世界で初めて量産車に搭載  
新型スカイライン Infiniti Q50  
(日産自動車株式会社)

## Highlight 03

日産自動車株式会社様の新型スカイライン (Infiniti Q50) に搭載された新開発のステアリング製品です。ハンドルとタイヤが機械的に接続されておらず、電気信号で動作するパイワイヤ技術を採用したステアリングシステムで、世界で初めて量産車に搭載されました。ステアリングギヤボックスのアシスト構造を2つのモータにすることで、高出力化、安全性を確保しています。また、轍によるステアリング取られや路面からのキックバックをハンドルに伝えないため、ドライバーの疲労を軽減します。将来的には自動運転に応用できる製品で、自動運転によりヒューマンエラーをなくし、自動車事故のない社会に貢献できればと考えています。



工場建屋外観

KYB-CADAC株式会社 概要

創業 1962年10月(昭和37年)  
 資本金 490百万円  
 社員数 148名(2014年4月1日現在)  
 所在地 長野県上田市塩川5473番地5  
 業種 油圧ショベル用油圧バルブの製造および加工、鑄造用金型の製造  
 沿革 本城工業株式会社として1962年に創業。1978年に油圧バルブ製造を開始し、1999年にKYBの100%子会社となる。2006年にKYBキャダック、2013年にKYB-CADACに改称。

明るくきれいで働く人に優しく、  
環境負荷を低減した新しい工場の建設

— 世界一のバルブ鑄物工場を目指す KYB-CADACの新工場

KYB-CADACは、大型油圧ショベルに使用されている油圧バルブの鑄物を生産しています。油圧ショベル市場は、グローバルな環境で成長を続けており、KYB-CADACも生産能力の増強を図るため、2014年1月に長野県上田市神の倉工業団地に工場を移転しました。新工場では、製品のトレーサビリティを中心とした品質データ管理システムの導入と生産リードタイムの極小化、多品種少量生産の要求に応えられる自硬性量産ラインを実現しています。

また、鑄物工場は、溶解工程で発生する熱による工場内の温度上昇や、造型工程で使用する砂が飛散することがあります。新工場は、これらの課題を解決し、明るくクリーンで、働きやすい工場の建設を目指しました。

例えば、工場内の温度上昇を抑えるために、自然換気システムを導入することで、熱を外に排出するようにし、砂の飛散防止には脱臭装置付の集塵機を導入しました。さらに圧迫感のあった天井のダクトをなくし、埋設ダクト方式に変更、省エネタイプの電気炉採用、天井からの採光、LED照明の採用などによりエネルギー消費量を大幅に削減しています。

新工場概要

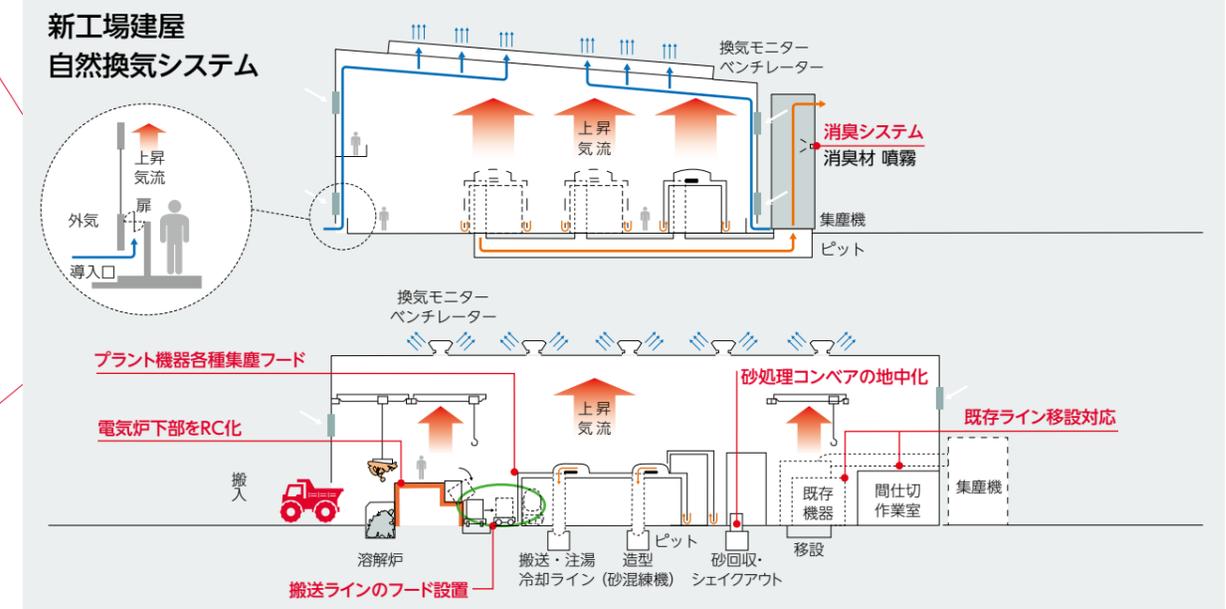
場所: 長野県上田市 神の倉工業団地内  
 敷地面積: 65,600m<sup>2</sup>  
 建物面積: 24,500m<sup>2</sup>  
 竣工: 2013年2月

生産能力

2013年度: 1,200トン/月

人と地球に優しい環境負荷低減工場

- ① 自然換気システム導入⇒工場内温度上昇の抑制
- ② 脱臭装置付の集塵機の導入⇒臭気除去、砂の飛散防止
- ③ 省エネ型電気炉の採用⇒エネルギー消費量の削減
- ④ 天井からの採光、LED照明の採用⇒エネルギー消費量の削減



KYB-CADACの製品

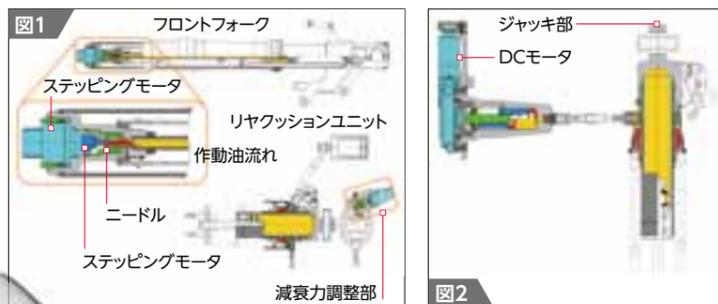
油圧ショベルを支える製品を提供  
 長年の蓄積された技術を生かして、油圧ショベル用大型油圧バルブに特化し、型の製作から鑄造、機械加工まで一貫生産し、安定した品質で製品を提供しています。



バルブのカットサンプル 生産ラインの外観 溶解した金属の詰め替え作業

安心・安全で  
人に優しい製品

FJR1300AS  
(ヤマハ発動機株式会社)



### 二輪車用電動調整式FF&RCU

近年の自動二輪車業界では、既存の快適装備に対する電動化が進んでいます。その中で従来は手動で行われていたサスペンションの減衰力、およびスプリングプリロードの調整を手元スイッチで簡単に切替できる電動調整式フロントフォーク(FF)とリヤクッションユニット(RCU)を開発しました。(図1、2)

特徴としては、電動モータを一から開発することなく、すべて市場で流通している部品を採用することにより、開発期間の短縮を図りながら商品化しました。



リヤクッションユニット

フロントフォーク

## MOTORCYCLE

### ドライブレコーダDRE-401

今回開発したドライブレコーダ(DRE-401)は、既存のDRE-400から品質向上を狙った後継機として開発しました。最大4台のカメラが接続可能で、前後左右の録画と音声録音やイベントの記録が可能な製品です。昨今、保険業界の市場ではドライブレコーダの導入促進をするなど、事故の未然防止に対する世間の意識が高まってきており、バスやトラック、タクシーなど業務用車両に幅広く展開されています。これらは安全に寄与する製品として期待されています。



DRE-401

## LSS



\*LSS: Load Sensing Shockabsorber

### 積載量感応ショックアブソーバ

乗員、荷物による積載重量の変化をショックアブソーバ(LSS)の長さの変化で検知し、常に快適な乗り心地と操縦安定性が得られるように減衰力をメカニカルに切替える積載量感応ショックアブソーバを開発しました。市場拡大が進むミニバン、ワゴンなどの後輪車重変化が大きい車種への搭載を狙ったKYB独自の最新機能付きショックアブソーバです。KYBでは人々に運転の楽しさと快適さを十分に感じていただける新製品を開発し、社会に貢献していきます。

### 耐熱性を高めた排煙ダンパ

KYB-YSによる開発・設計・生産体制のもと、お客様に排煙ダンパ製品をお届けしています。排煙ダンパは商業施設等に取り付けられる排煙窓の開閉の補助に用いられており、火災時に発生する有毒ガスや熱を外部に放出し、人命を守る設備の補助に役立っています。火災時に排煙ダンパに封入されている作動油が漏れだしても、引火しにくい難燃性作動油を採用することで、施設への延焼低減を期待できる排煙ダンパを開発しました。



## Products

# 安心・安全で 人に優しい製品

KYBは人々の笑顔と心地よい暮らしを提供するため、モノづくりの技術を追求しています。このようなKYBのビジョンを表す、安心・安全で人に優しい製品をご紹介します。



## KVMM-80-D

### 小型油圧ショベル用コントロールバルブKVMM-80-D

コントロールバルブとは、ポンプから吐出された油を制御して、アクチュエータを自在に動かすための機器です。

近年の原油高騰化や排ガス規制に伴う省エネ化の市場要求に対応すべくモデルチェンジを行いました。

油路形状の最適化およびスプール径アップを行うことにより、エネルギーロスとなっている圧力損失を最大18%低減し、油圧ショベルの燃費向上に貢献しています。また、製品重量で最大19%削減するなど、製造時の環境負荷を低減しました。



## ADS 電磁弁



\*ADS: Aqua Drive System

### 水圧電磁比例制御弁の開発と応用

作動流体に水を用いた新しい流体制御技術により、高い安全性と衛生性を持ち、油圧のような高い出力密度と制御性を実現する水圧電磁比例制御弁の研究開発に取り組んでいます。水の低潤滑性にまつわる課題を独自技術で解決し、性能および耐久性で実用レベルまで到達しています。水圧電磁比例制御弁は、流れの方向や流量を制御する機器です。これを、食肉加工機械に応用し、従来と同じ性能で「食の安全・安心」に貢献できる機械を開発しました。今後は医療・医薬、半導体などのクリーン性を必要とする分野へも応用していきたいと考えています。

# 経営マネジメント

## コーポレート・ガバナンス

### 基本的な考え

KYBグループは市場のグローバル化が進展する中、企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの強化を重要課題として認識しています。また、当社は経営理念の実現を目標に継続的な施策を実施し、ステークホルダーの発展を含めた、社会への貢献を当社の使命と位置付けています。

### コーポレート・ガバナンス体制

当社は監査役会の設置形態を採用し、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するように以下の体制を構築しています。

取締役会は7名で構成され、原則として毎月1回開催しています。また、取締役会を法令で定められた事項のほか、経営方針など経営に係る重要事項の意思決定や経営執行の監視機能と位置付けています。

執行役員制度の導入に伴い、経営の基幹に係る重要事項を審議する「執行役員会」とともに、国内関係会社の経営執行に係る重要事項を審議する「国内関係会社経営会議」や、海外関係会社の経営執行に係る重要事項を審議する「グローバル・ストラテジー・コミティー」さらに、取締役社長自らが工場・現場に出向き、各製品の品質問題ほか経営課題をフォ

ローする「社長報告会」などの会議体を設置し、グループ経営監視体制の強化を図っています。

監査役会は常勤監査役4名で構成されており、うち2名は社外監査役です。社外監査役による監査により、実効性のある経営監視が期待でき、有効なガバナンス体制がとられているものと判断しています。

また、社外チェックという観点から、経営監視機能の客観性をより一層高めるために、社外監査役のうち1名を独立役員としています。

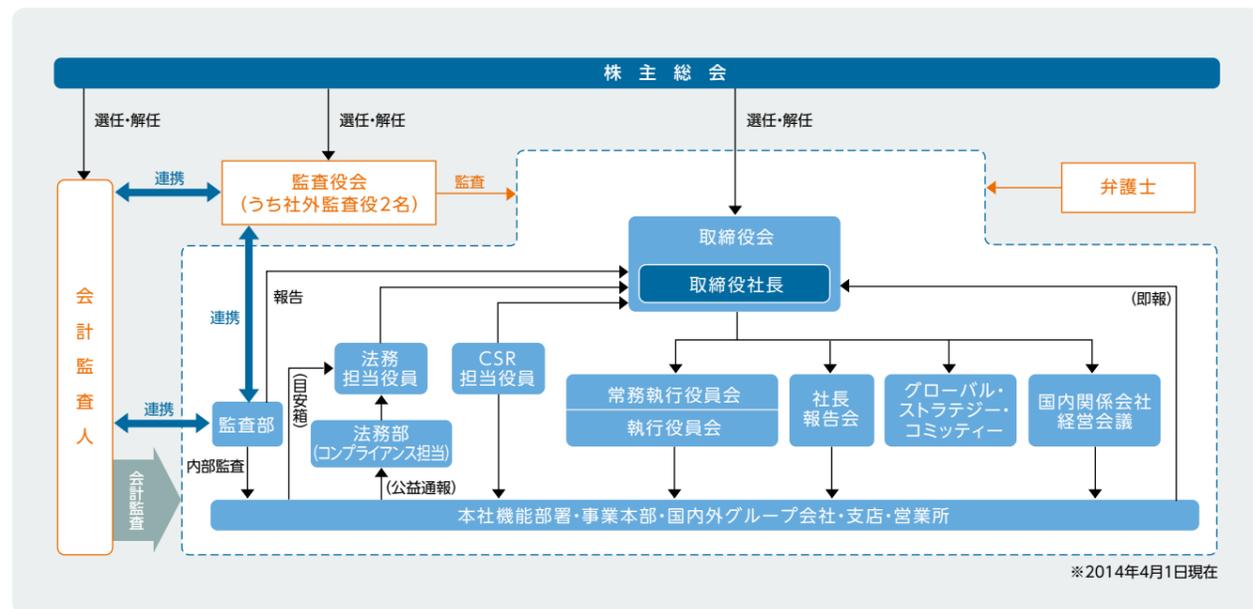
### 企業の社会的責任

事業活動の中で常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献することを目指しています。また事業活動はステークホルダーの皆様との良好な関係なしには存続することができません。

当社では、経営理念とビジョンに基づいたCSR活動を各部署の年度実施項目に掲げ、実践しています。そしてその行動をチェックして、改善、改新のサイクルを継続して実践しています。

従業員は当社の行動指針を携行しており、CSRの重要性の認識を深めています。

### コーポレート・ガバナンス体制



※2014年4月1日現在

## 内部統制

コーポレート・ガバナンスを有効に機能させる前提として、財務報告の信頼性を確保し、業務の有効性を高め、法令等遵守を促すために、内部統制システムの整備および内部統制機能の強化に注力することが必要不可欠であると考えています。

具体的には、会社法に基づき内部統制システムの基本方針を取締役会で決議し、リスク管理体制整備、グループ管理体制整備、社内コンプライアンス体制整備等の諸施策を推進しています。

また、金融商品取引法に基づき「財務報告に係る内部統制」の整備・評価を法の定める手続きで行い、財務報告の信頼性を確保するとともに、適正な情報開示を実践しています。

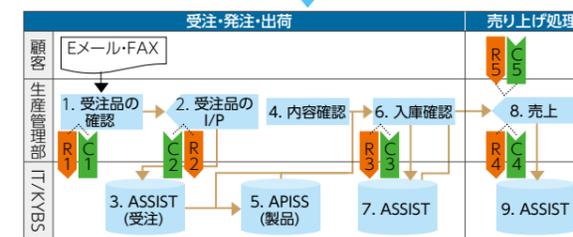
### 「見える化」による自己管理

業務のルールや手続きは、規程・規則・要領に定めていますが、内部統制の業務処理統制ではさらに仕事の流れを図式化しています。そうすることで、これまでは担当者にしかわからなかった業務が担当者以外の従業員でも内容がわかるようになり、またどこかにリスクが存在していないか、チェック機能が有効に働いていて業務のコントロールがされているかを確認・共有できる仕組みを取り入れています。

2008年4月より開始された金融商品取引法による内部統制報告制度に伴い、KYB監査部ではKYBグループの決算に影響を及ぼす可能性があるプロセスについて図式化を推進し、評価を行っています。

### 業務内容の図式化

No.	名称	詳細内容
1	受注品の確認	担当者が品番、納期、数量に間違いや不適切がないか確認
2	受注品インプット	受注品の確認・メール内容を見てインプットする
3	ASSIST(受注)	※販売管理システムでの処理
4	内容確認	担当者が基準日程の中身を確認
5	APISS(製品)	※生産情報管理システムでの処理
6	入庫確認	仕入れ先から部品が納品された後、入庫内容を確認する
7	ASSIST	※出荷データを受け取る
8	売上	担当者が、画面にアクセスし、売上計上の処理を実施
9	ASSIST	※売上実績の集計



## コンプライアンス

「コンプライアンス」は「社会規範である法律・命令・規則の遵守」にとどまらず、企業活動に伴う「定款・社内規程・契約等の遵守」、さらに健全な企業活動を進めるための「企業倫理の遵守」と考えています。

1. 役員と従業員が企業活動を遂行する上で遵守しなければならないルールとして「企業行動指針」を整備し、法令遵守と企業倫理の確立に努めています。
2. 役員をはじめ、階層別研修・分野別研修等を通じて、コンプライアンス教育を実施しています。
3. 全グループ企業を対象とする社内通報制度(即報・目安箱)を整備しています。さらに、公益通報者保護法の施行を受け、専用の通報・相談窓口を設置しています。
4. 個人情報保護方針を定め、社内規程の整備を行い、社内委員会の設置をしています。社外向けに、個人情報問い合わせ窓口を設けています。
5. 企業の反社会的勢力排除に関する取り組みが強く求められている中、KYBグループでは、お取引先様が反社会的勢力との関係を有している等判明した場合に、契約を解除し得るように、反社会的勢力との関係を有していないことを書面で確認する等の取り組みを行っています。

### TOPICS

#### コンプライアンス教育をグローバルに展開しています

コンプライアンス教育の一環として「グローバル・コンプライアンス情報誌」(GCI)を発行しています。グローバルに活躍するすべてのグループ企業が、リスクを最小化し、問題に適切に対処するための措置を講じることができるよう、ビジネスサイドでも理解しておくべき法令情報をわかりやすい形で整理して定期的に配信しています。

# 環境マネジメント

## 環境基本方針

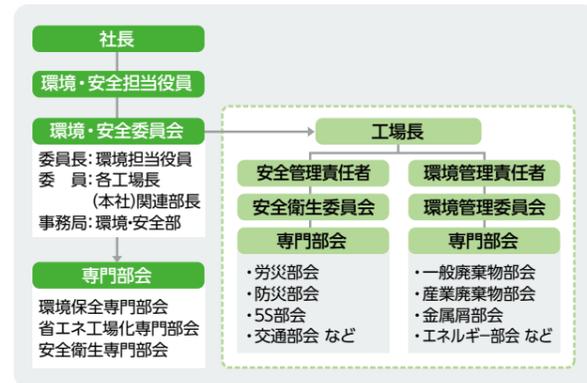
### スローガン

守ります みどりの地球  
創ります 環境にやさしい製品

### 環境・安全管理体制

環境・安全担当役員をリーダーとする「環境・安全委員会」を設置し、環境面と安全面に関する取り組みについて、同時に意思統一を図っています。同委員会は、環境保全専門部会、省エネ工場化専門部会、安全衛生専門部会の3つのワーキンググループを下部組織に持ち、専門的な視点で活動を推進しています。また定期的に環境および安全の内部監査を実施し、状況の確認を行っています。

### KYBの環境管理体制



### 環境・安全担当役員より

#### 地球環境に優しい工場と地域社会に根差した取り組みを進めます



執行役員  
城所 重夫

2013年度は特に電力の安定供給に向けたピーク電力の低減と産業廃棄物の削減活動を進めてきました。2014年度はこれまでの活動内容をグローバルに広げ、持続可能な社会を目指した環境保全活動を展開します。2014年度から2016年度の中期計画では、老朽化した効率の悪い空調設備等を更新したり、塗料カスのバイオ化を展開するほか、廃プラスチックのリサイクル化を推進します。

また、引き続きボランティアなどを通じた地域社会とのコミュニケーションの場を広げ、皆様によるこぼれる住みやすい街づくりに貢献していきます。安全面では休業災害は減少した一方で、労働災害の全発生件数は対前年比で横這いという結果でした。これを踏まえ、労働災害の未然防止活動を活性化させるとともに化学物質のリスクアセスメントを実施し、安心して働ける職場環境をつくりこんでいきます。

最後に、本報告書に関心を寄せていただいたことに感謝申し上げますとともに、今後ともさらなる内容の充実、向上を図っていく所存でございますので、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

### 環境基本方針

人と地球にやさしい製品づくりをするとともに、環境保全活動を経営に対する評価の重要な指標と位置付け、積極的に推進していきます。

1. 環境への負荷の少ない循環を基調とした生産活動及び企業活動を整備、構築する。
2. 全社的、長期的かつ持続的な活動、展開を図る。
3. 地域社会との調和を図り、良き企業市民として社会に貢献する。
4. 一人ひとりの役割分担を明確にし、全員参加による活動とする。

### 環境・安全に関わる中期方針について

2011年度に中期方針を策定し、環境と安全について基本方針を掲げ取り組みを進めてきました。2014年度には、新たな中期方針を策定し、活動をスタートさせています。

#### 環境・安全中期方針(2011年~2013年) 以下抜粋

1. 省エネ工場づくり  
CO<sub>2</sub>原単位を毎年1%削減し、CO<sub>2</sub>排出量を1990年比2020年までに25%削減する。
2. 廃棄物を出さない工場づくり  
産業廃棄物の最終処分量を2015年までに、2000年度比65%削減する。
3. 労働災害を出さない工場づくり  
リスクアセスメントによる労働災害の未然防止  
安全体感道場の展開 など

#### 環境・安全新中期方針(2014年~2016年) 以下抜粋

1. エネルギー・廃棄物の最少化を目指した工場づくり  
エネルギー原単位を2013年比で年1%、産業廃棄物の排出量原単位を2013年比で年3%削減する。
2. 労働災害ゼロ拠点づくりと拡大  
従業員の安全意識向上と重大な危険源を撲滅する。

## 環境保全に関する目標達成状況

環境に関する会社方針に基づき、生産拠点毎に「環境管理活動計画」を策定し、目標達成に向けさまざまな活動に取り組みました。しかしながら、2013年度はCO<sub>2</sub>の排出量やエネルギー原単位などで、目標を達成することができませんでした。

### 2013年度の活動結果

○:目標達成 ×:目標未達

テーマ	2013年度目標	2013年度結果	評価	掲載ページ
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量	74,417t-CO <sub>2</sub> 以下	81,048t-CO <sub>2</sub>	×
	CO <sub>2</sub> 原単位	0.364t-CO <sub>2</sub> /百万円以下	0.404t-CO <sub>2</sub> /百万円	×
省エネルギー	エネルギー使用量(原単位)	0.206kL/百万円以下	0.234kL/百万円	×
	再資源化、リサイクル率の向上	リサイクル率	88%以上	88.2%
廃棄物の減量	ゼロエミッション	4%以下	3.6%	○
	一般廃棄物	500t以下	492t	○
	金属屑	17,515t以下	15,785t	○
	産業廃棄物	3,160t以下	3,386t	×

(注) 原単位は生産出荷高に基づき算出しています。  
エネルギーは、電気、燃料を原油換算し、合計値をエネルギー使用量としています。

2014年度の主な取り組み概要

CO<sub>2</sub>、エネルギー  
高効率照明への置換、待機電力の削減、老朽設備の更新など

廃棄物  
汚泥の有価化、塗料カス減容、廃プラスチックのリサイクル化促進など

## 環境会計

環境保全に対する取り組みを定量的に評価するため、2000年度より環境コストの集計をしています。

### 環境保全コスト

環境省が示す環境会計ガイドライン2005年版を参考にし、投資額と費用額に区分して集計しています。

単位:百万円

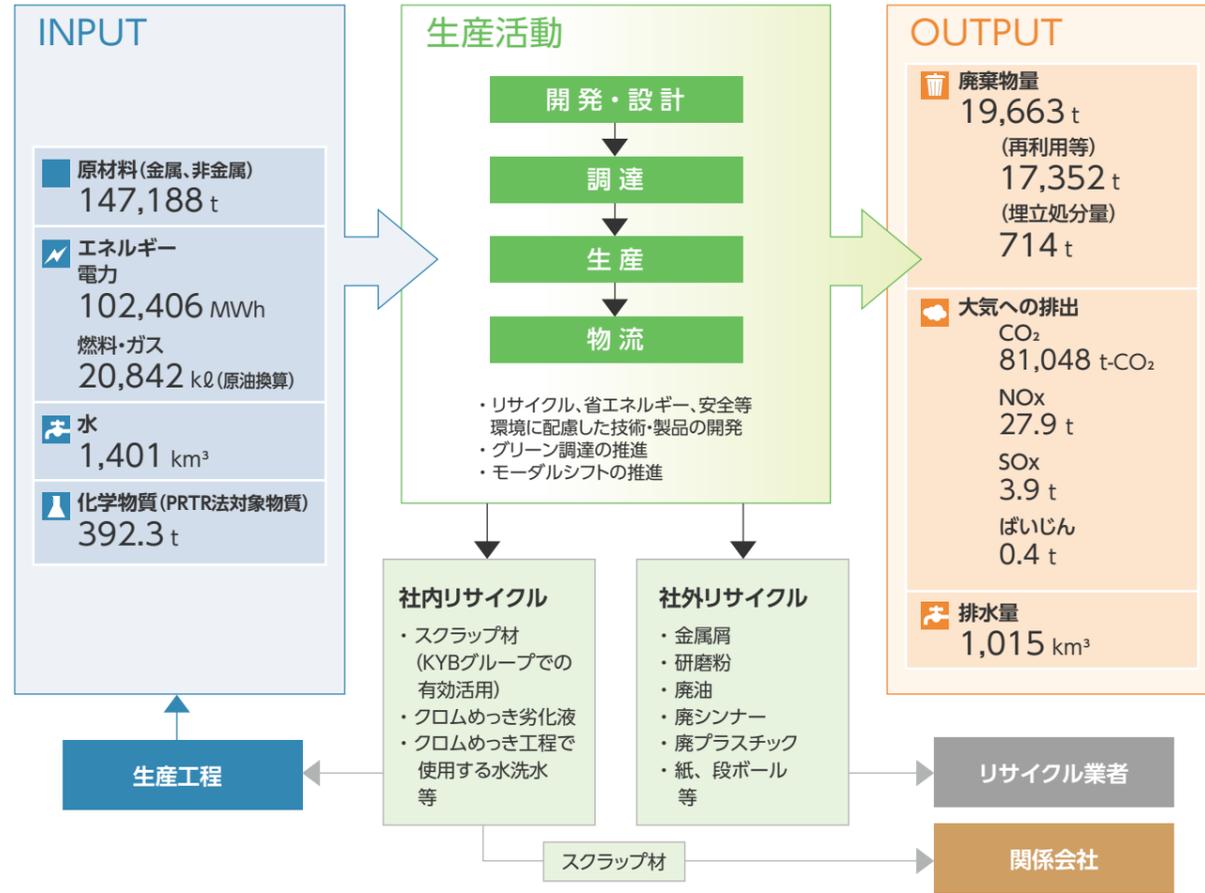
コスト分類	主な内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト	(1)-1 公害防止コスト	51.1	136.8
	(1)-2 地球環境保全コスト	201.7	28.3
	(1)-3 資源循環コスト	36.9	124.7
(2) 上・下流コスト		0	0
(3) 管理活動コスト	・ISO14001の維持・管理 ・環境負荷監視	2.2	80.1
(4) 研究開発コスト	・環境に優しい製品開発 ・軽量化、有害化学物質の削減製品	122.4	92.0
(5) 社会活動コスト	・事業外の環境保護に伴う支援 ・工場周辺の緑化、景観維持	0.1	7.0
(6) 環境損傷対応コスト		0	0
(7) その他のコスト	・内部環境保全 ・福利厚生保全	0	80.2
	合計額	414.4	549.1
	総額	963.5	

環境保全コストの分類と定義  
投資額 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの  
費用額 環境保全を目的とした財・サービスの消費によって発生する費用または損失。

# 環境負荷の低減活動

## 事業活動に伴う環境への影響

KYBグループでは、エネルギーや水など多様な資源を使用して生産活動を行っています。できる限り少ない資源やエネルギーで効率よく製品をつくるため、資源の社内リサイクル、社外リサイクルに取り組んでいます。



## ISO14001認証取得状況

環境保全への取り組みを体系的に展開するため、国際規格であるISO14001環境マネジメントシステムの導入とその推進を図っています。

### 国内

社名	認証登録年
KYB	2000.12
相模工場(含む 基盤技術研究所、電子技術センター)	2000.12
熊谷工場	2000.12
岐阜北工場(含む KYB金山)	2001.12
岐阜南工場(岐阜東工場、生産技術研究所、工機センター、KMS)	2000.2
国内関係会社	認証登録年
KSM(三重工場)	2000.12
タカコ(滋賀工場)	2003.2
KYB-YS	2004.4
KYBトロンデュール	2008.11

### 海外

社名	認証登録年	社名	認証登録年
KWT (中国)	2013.11	KMV (ベトナム)	2013.5
KLRC (中国)	2010.1	TVC (ベトナム)	2007.1
KIMZ (中国)	2009.4	KMT(台湾)	2001.6
KHIZ (中国)	2013.11	KYBSE (スペイン)	2001.12
KST (タイ)	2003.8	KSS (スペイン)	2001.6
KYBT (タイ)	2003.7	KMCZ (チェコ)	2009.8
PT.KYBI (インドネシア)	2004.11	KAC (アメリカ)	2002.5
KMSB (マレーシア)	2005.5	TAC(アメリカ)	2013.2
KSMSB (マレーシア)	2005.5	KMB (ブラジル)	2007.3

## 地球温暖化防止活動

油圧技術の複合化により「快適さと力強さ」を社会に提供する企業の生産拠点として、人と地球に優しい製品開発・生産活動を通じ、環境保全に努めます。また、地域社会、国際社会との共生・調和を図り、良好な自然環境を保つよう行動します。

### 2013年度CO<sub>2</sub>排出量、エネルギー使用量

2013年度のCO<sub>2</sub>排出量は、原単位において2010年度に対して3%削減することを目標として活動しました。燃料転換により、CO<sub>2</sub>の排出量は低減できましたが、電力の安定供給

#### CO<sub>2</sub>排出量



に向け自家発電設備を設置するなどしたために目標値に未達となりました。2014年度では、挽回すべくさらなる改善を進めていきます。

#### エネルギー使用量



## VOICE

### 岐阜県環境配慮事業所(E工場)視察会

2013年9月25日に、岐阜県環境推進協会主催の「岐阜県環境配慮事業所(E工場)」視察会が、岐阜東工場で行われました。この視察会は、「岐阜県内優秀企業の視察を通して環境配慮に係る認識を深め、環境負荷削減や企業環境活動推進の一助とすること」を目的としたものです。E工場に認定されている企業の方々、可児市・御嵩町・坂祝町など近隣自治体の方々等、総勢70名程が岐阜東工場を視察されました。

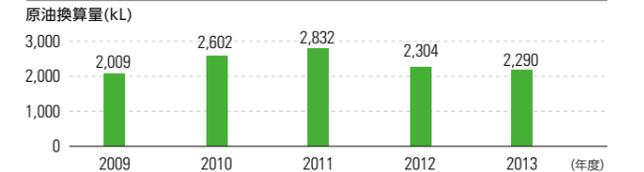


視察会の様子

### 輸送に関わるエネルギーの削減

2007年に省エネ法上の特定荷主に指定され、年1回の定期報告書および計画書を官庁に提出しています。輸送ルートの変更や積載効率の向上など、輸送に関わるエネルギーの使用量の削減にも努めています。

#### 輸送に関わるエネルギー使用量



## 改善事例

### Case 三河地域 幹線輸送ルート整備

岐阜北工場から約60km離れた三河地域へ、毎日2ルート(直納4便、中継6便)輸送していましたが、荷量の増減に合わせ、お客様に近い新規の中継拠点にすべて集約・変更し、積載率を向上させ2便削減した。また、輸送効率を上げたことで停滞時間が低減され、中継時間を確保し、納入リードタイムの維持・向上を図りました。

## 環境負荷の低減活動

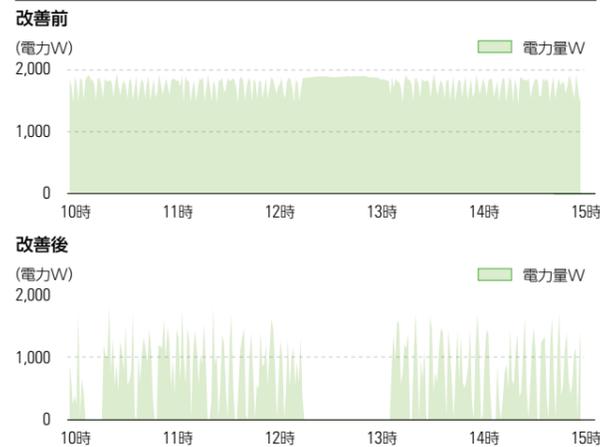
### 生産拠点活動

環境負荷低減活動の一つとして、温室効果ガスの低減を図っています。ムダなエネルギーの削減や燃料転換、物流の効率化を図るなど、エネルギーの使用量を低減するさまざまな活動を推進しています。

#### 油圧モータ間欠運転による待機電力の削減

相模工場では省エネ活動の取り組みの一つとして、これまで組立装置の作業が終了しても連続して回転していた油圧モータを、作業の終了と同時に自動停止させることで「待機電力のムダ使い」をなくす活動をしています。これにより組立装置が1日に消費する電力量を、約21kWhから約14kWhに削減することができ、年間1,500kWhの電力削減が期待できます。

#### 待機電力の削減



#### 「ドーム型天井取付けタイプ」LED照明の採用

岐阜北工場では、技術部の事務所照明をLEDに変更しました。直管型LEDには統一された規格がありません。蛍光灯器具にLEDを取り付けると、過熱して火災につながる恐れがあります。そこで、「ドーム型天井取付けタイプ」を採用し、事故の未然防止を図りました。照度が蛍光灯と同程度のLED開発も進んでいます。今後同タイプのLED照明に順次交換していく予定です。



ドーム型LED照明

#### 岐阜南工場ボイラーシステムの改善

岐阜南工場では、2010年の豪雨による可児川の氾濫で、ボイラーが浸水し、蒸気供給停止の状態に陥りました。この対策として、ボイラーを可児川から離れた工場内に分散配置したことにより、浸水のリスクを回避するとともに、蒸気の配管輸送距離を短縮し、配管輸送によるエネルギー損失を70%低減しました。さらに、重油から都市ガスへの燃料転換も行ったことで、ボイラーからのCO<sub>2</sub>排出量を約30%削減しました。



分散して配置したボイラー室

#### 熊谷工場 塗装用ボイラーの更新

熊谷工場の塗装装置では、ミキサ車下塗り塗装の約6割を行っています。塗装の脱脂槽2槽、被膜化成槽、塗料槽、計4槽の加熱をLPガス蒸気ボイラーで行っていましたが、ボイラーと各槽が約90m離れていること、ボイラー自体が旧式で効率が悪いことから、設置場所の見直し、ボイラーの更新を実施しました。

ボイラーと各槽の距離を約70mに縮め、高効率ボイラーとなったことによりLPガス使用量が30%削減されました。

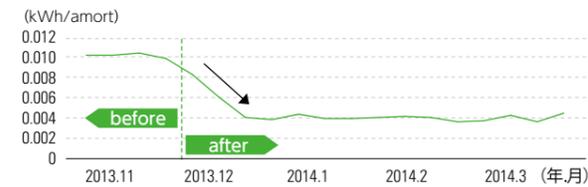


高効率塗装用ボイラー

#### エリア別消費電力データ収集による改善 KAMS(スペイン)

KAMSでは2013年度、設備毎の電力・ガス消費量の削減に取り組みました。ライン毎に設置した消費電力モニターをもとに、分析・評価を実施して改善につなげています。全工場に活動を展開したことにより、対象製品当たりのエネルギー消費量を約10%低減できました。2014年度については、主に、塗装焼き付け工程・ガスボイラーのスチーム設定温度の見直しや外部照明のLED照明化に取り組みます。

#### コンプレッサーの電力消費量推移



#### 照明の省エネ化 KYBSE(スペイン)

2013年度の省エネ活動として工場のメタルハライドランプ100個をインダクションランプに変更し節電を行いました。



#### ミルクランによる輸送エネルギーとコスト低減 KYBSE(スペイン)

KYBSEでは、お取引先様と協力し、個別に行っていた部品の調達を、各社集配便に集約(ミルクラン)することにより、調達時間(リードタイム)を従来比の60%に短縮し、輸送エネルギーを大幅に低減しました。さらに、輸送コストは75%に低減するとともに、倉庫要員、部品自体のコスト、部品受け入れ回数の低減にもつなげることができました。今後もこの活動を拡大していきたいと考えています。



積載されたトラック内

#### 室内空調・照明の電力消費量低減 KST(タイ)

KSTでは2013年7月に新工場に移転し、併せて所内で素材から完成品まで製造するCVT用ペーンポンプ一貫生産ラインを追加して操業を開始しました。アルミダイカスト棟を独立させ、安定した熱帯気候を生かして建屋四方の外壁を極力減らし、屋根のひさしを長くし、外気開放とすることで空調と室内照明の電力量低減を図っています。また溶炉熱源にもパイプラインで供給される安価なナチュラルガスを採用しています。



新建屋側面

#### 世界環境デーに苗木配布活動 KCPL(インド)

KCPLでは、地域社会振興と環境改善などのCSR活動を積極的に行っています。環境保全活動である"Plant-a-thon"では、2009年から世界環境デー(毎年6月5日)の早朝に従業員がヴァドガラ市内にある9つの公園で市民に植樹を呼びかけ、広葉樹の苗木を配布しています。また地元紙上で環境保全に関する作文コンテストを主催し、2013年には市の環境団体より表彰を受けました。今後も環境保護や地域の伝統的芸術の保護、農村の教育支援などを継続して地域社会に貢献していきます。



公園での苗木配布活動



緑に囲まれたKCPL事務所

## 環境負荷の低減活動

### 化学物質の管理と排出量の低減

化学物質は現代社会には欠かせないものです。一方で環境に与える影響が大きいことから、環境負荷に対する国際的な規制も年々厳しくなっており、迅速な対応が必要となっています。これらに適切に対応し使用量の低減と代替品への切替などを進めています。

#### 製品に対する環境規制への対応

グループでは、製品に対して、欧州の環境規制であるELV指令・RoHS指令・REACH規則をはじめとするさまざまな規制に対応するための活動を推進しています。

ELV指令により自動車向け製品では一部を除き使用禁止物質(水銀、カドミウム、六価クロム、鉛)の使用を廃止しています。現在は対象をその他製品(建設機械向けなど)にも広げ、製品モデル別に品質評価をしながら廃止活動を展開しています。

REACH規則に対しては、2011年に製品含有化学物質のデータベースを構築し、使用禁止・制限物質等の有無を確認できるようにしています。またデータの蓄積と都度の見直しにより、お客様(主に欧州へ輸出する最終組立メーカー)からの情報提供要求にも迅速な対応が可能です。

#### 有害物ばく露作業報告への対応

有害物ばく露作業報告は、厚生労働省が実施する化学物質による労働者の健康障害に対するリスク調査で、対象物質を年間500kg以上使用した場合は報告の義務があり、当社も報告を行っています。PRTRの届出と異なり、毎年対象物質が替わり、使用状況も報告する必要があります。

岐阜南工場、岐阜東工場では、公官庁の調査対応および工場の環境・安全衛生活動のために、化学物質データベースを新たに構築し、使用しているすべての化学製品(塗料、薬品、油脂など)に対し、含有物質、製造業者、使用職場、該当法令、危険有害性などを見える化しています。2014年度では、化学物質のリスクに対して迅速に対応するために、他工場へも展開していきます。

#### PCBへの対応

PCBは絶縁性、難燃性に優れた性質を持つことから電気機器に使用されましたが、使用禁止物質に指定されました。当社でも法令に基づき、436台のコンデンサ等を厳重に保管管理するとともに毎年の報告を実施しています。このうち2013年度に関係会社のKYB-YSおよびKYB-CADACに保管された全機器5台を処理委託会社を通じ、処理完了しました。今後、他工場でも順次処理が進められます。

#### PRTR法対象物質の調査

個別事業所ごとにPRTR法対象物質の排出量・移動量を把握しています。これらの取扱量については、その他の化学物質を含めて低減を図っていきます。

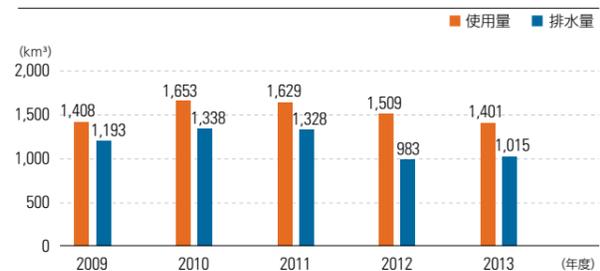
		単位(t/年)	
	管理番号	物質名	取扱量
特 1 種	88	無水クロム酸	49.5
	309	ニッケル化合物	0.7
	400	ベンゼン	0.9
	1	亜鉛の水溶性化合物	4.2
	53	エチルベンゼン	70.0
	57	エチレンジクロールモノエチルエーテル	1.9
	80	キシレン	105.7
	83	クメン	1.5
	133	エチレンジクロールモノエチルエーテルアセテート	2.6
	188	N,N-ジシクロヘキシルアミン	1.8
1 種	239	ジブチルスズオキサイド	0.5
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	8.4
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	3.3
	300	トルエン	112.8
	304	鉛	4.5
	308	ニッケル	1.5
	384	1-プロポプロパン	3.5
	392	ノルマル-ヘキサン	0.5
	410	ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	0.54
	412	マンガン	3.7
	438	メチルナフタレン	1.7
	460	りん酸トリトリル	10.0

\*環境社会報告書には各事業所の合計が0.5t以上の物質について掲載しています。

#### 水の循環利用・再利用

2013年度の工場での水使用量は、前年比で約35%削減、排水量については28%の削減となりました。BOD等の水質についても、すべての工場において水質汚濁防止法に基づく排水基準を満たしています。水使用量の削減、定期的な水質の確認を行い、環境への汚染防止を図っています。

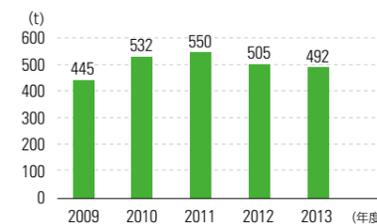
#### 水使用量・排水量



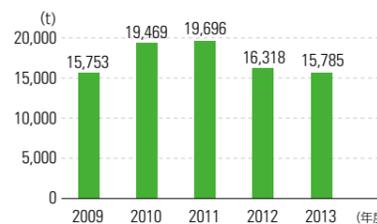
### 廃棄物低減への取り組み

廃棄物の発生を低減するため、設計・製造・販売・物流のあらゆる段階での省資源化(リデュース・リユース・リサイクル)を進めています。またムダなコピーや印刷をなくし、紙ごみの大幅低減を図っています。今後は、汚泥リサイクル、スクラップ材の有効利用、アルカリ廃液減容などをさらに推進し廃棄物低減を図っていきます。

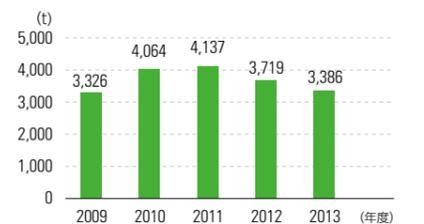
#### 一般廃棄物排出量



#### 金属屑排出量

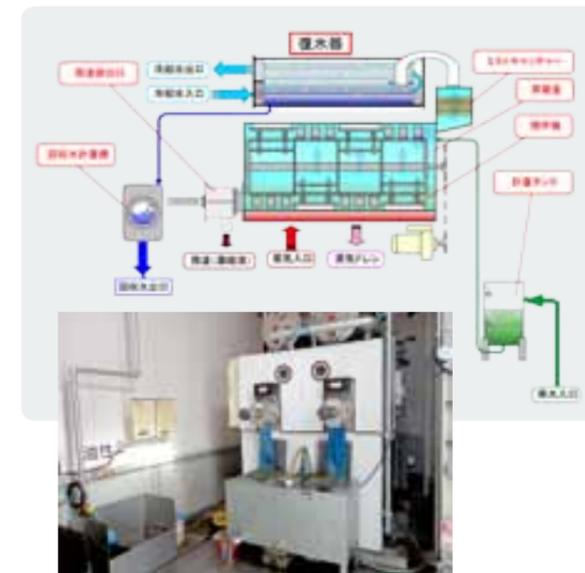


#### 産業廃棄物排出量



#### KYB金山 アルカリ廃液 減圧蒸留型減容装置の導入

KYB金山は、年間800klものアルカリ廃液処理を産廃処理業者に委託していました。そこで排出量の削減に当たって、いろいろな工場設備を視察した結果、環境に優しくかつ効率のよい設備を導入することができました。導入当初は、建屋毎の回収タンク容量が足りず、減容効率を上げることができませんでした。そこで回収タンクを集約することでフル稼働が可能となり、廃液の排出量を1/8に削減することができました。今後も洗浄液の交換頻度延長などの発生源低減活動を行い、将来のゼロエミッションにつなげていきます。



#### 神奈川県内陸工業団地協同組合環境委員会 ゼロエミッション推進チームへの参加

神奈川県内陸工業団地協同組合内の37社で構成されるゼロエミッション推進チームに参加し、「廃棄物のゼロエミッション化」「エネルギーのゼロエミッション化」「生物多様性への対応」など、毎月の情報交換・成果発表および相互視察研修会を行っています。1月15日には相互視察研修会を相模工場で開催し、廃液の排出量を低減する目的で導入した油処理装置の見学と当社の環境活動について説明しました。



減容装置の視察風景

#### 熊谷工場 下塗り塗料改善

従来のコンクリートミキサ車の下塗り塗装では、対象部品の約4割にフタル酸系塗料を使用していました。2013年から規制対象となったキシレンが含まれるフタル酸系塗料は、自然発火の危険性があることや塗料品質の管理が難しいなどの問題があり、早急な改善が必要でした。

発火の危険性や作業性の問題が少ない一液性エポキシ塗料を選定し、物性試験、品質試験を経て塗料の変更を実施しました。従来より薄い塗膜が可能となり、また中塗り塗料を廃止することで環境に優しい製品となりました。



塗装後のミキサ車

# お客様のために

## お客様満足向上の取り組み

### 品質基本方針

KYBでは「良い品質はわが社のいのち」の考えのもと、経営理念を具体的なモノづくりやサービスの現場での活動方針・方策へと展開し、お客様、社会の発展に貢献するため、さまざまな活動を行っています。

### 品質保証体制

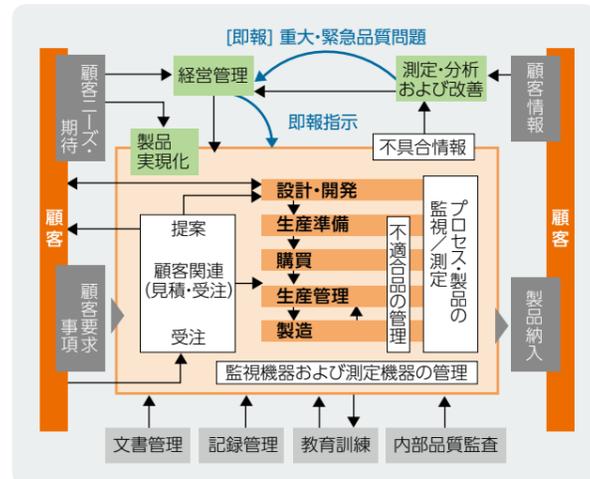
「製品品質」と「サービスの質」とともに「仕事のプロセスの質」が重要だと考えています。ISO9001認証取得をはじめ、品質保証体制の質の向上に努めています。

また、市場での品質不具合の撲滅と生産工程での不良低減・撲滅を通じた経営安定化と環境負荷低減に取り組んでいます。

工場長や本社役員による現場確認では、単に不具合箇所を指摘するだけでなく、課題を克服して成果を出したよい取り組みやモチベーション向上につながる事例などを見出し、グローバルで応用展開し、改善活動を通じた人材育成にも積極的に取り組んでいます。

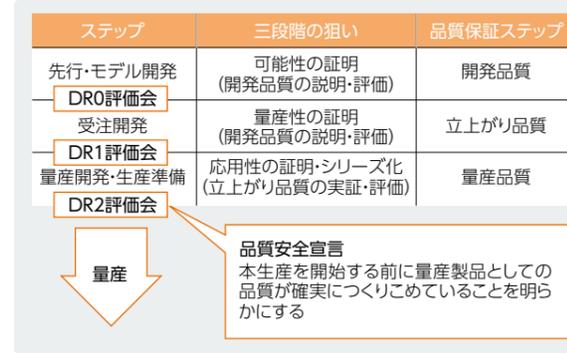
## 開発～量産ステップ

### 品質マネジメントプロセスと品質保証体制

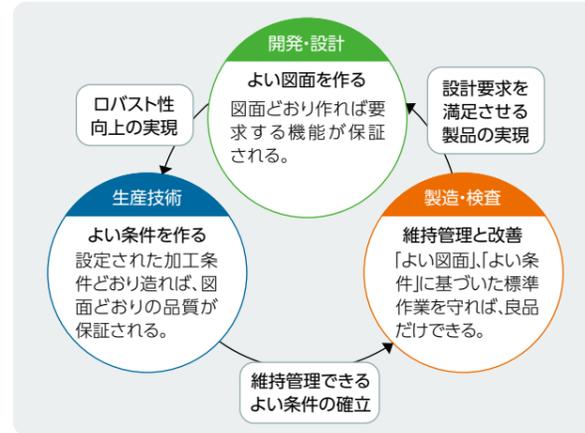


「市場やお客様のご要望に適合した性能・品質の製品をタイムリーにお届けする」ため、企画段階から量産開始までを3ステップに分けた「三段階評価による製品・技術開発」に取り組んでいます。やり直しやムダがない開発を進め、社会に貢献していきます。

### 三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言



### KYBの目指す姿：品質未然防止のサイクル



## お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見をうかがえる貴重なコミュニケーションの場と考えています。今後も積極的に展示会へ参加していきます。

### 出展した展示会（一部）

上海モーターショー2013	中国・上海
Paris Air Show 2013	フランス・パリ
2013中国国際農業機械展覧会	中国・青島
第3回 鉄道技術展	日本・幕張メッセ
Inter Aqua2014	日本・東京ビッグサイト
第5回 振動技術展	日本・パシフィコ横浜
エネテック ジャパン	日本・東京ビッグサイト
IFPE2014 (International Fluid Power Exposition)	アメリカ・ラスベガス

# お取引先様とともに

## パートナーシップの構築

### 調達基本方針

KYBは、企業のCSRを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。モノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくためにお取引先様は、商品づくりの大切なパートナーです。以下に調達の基本的な考え方をご紹介します。詳細はwebをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1 お取引先様と共存共栄を目指した調達活動 | 6 納期対応         |
| 2 法令の遵守               | 7 自然環境の保護      |
| 3 品質第一                | 8 グローバル調達体制の構築 |
| 4 安全衛生・人権・労働          | 9 危機管理         |
| 5 継続的原価低減活動           | 10 機密情報管理      |
|                       | 11 腐敗防止        |

### お取引先様との関わりについて

#### ■ 2013年度調達方針説明会開催

KYBとお取引先様との連携強化のため2013年度も「KYB調達方針説明会」(東京會館・東京都千代田区)を開催致しました。当日、196社のお取引先様をお迎えし、会社および調達方針を説明、またQCDIに活動され効果を上げた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲みでの交流懇親会も併せて開催致しました。

#### ■ 取引先テーマ研究会活動

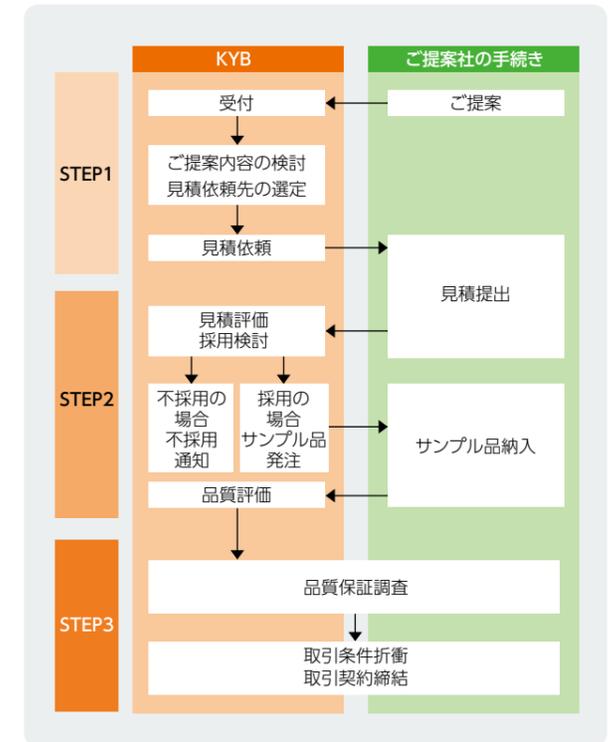
取引先テーマ研究会は2007年から活動を開始し、2013年で7年目を迎えます。同研究会は、「お取引先様が抱える多くの課題の中でお取引先様自身だけでは解決が困難なことやお取引先様同士の共通課題を取り上げ、共同で研究していくこと」を目的とする自主的なチーム改善活動です。趣旨に賛同され活動に参加されるお取引先様も増え、発足当時2チームの15社でしたが現在は7チームの48社まで拡大しています。



成果発表会

### お取引開始までの手順

以下の手順に従ってお取引を開始致します。



### 紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種(タンタル・タングステン・すず・金)を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないことを確認することが求められています。

KYBグループ企業は、CSRの視点や米国金融規制改革法(ドット・フランク法)の趣旨に基づいて、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを進めます。

# 地域社会のために

## 社会支援活動

### 介護老人保健施設との合同防災訓練

岐阜南工場は、近接する社会保険介護老人保健施設と「災害活動応援協定」を締結しています。救護活動と消火活動を任されており、毎年、介護老人保健施設にて行われる合同防災訓練に、岐阜南工場本部消防隊が参加しています。建物の2階以上に住んでおられる体の不自由な方を、「非常用階段避難車」を使用して救助する訓練や、「可搬ポンプ車」による放水訓練を行っています。



可搬ポンプ車による放水訓練

### 「SC相模原」KYBスペシャルサポートマッチの開催

地域の活性化やスポーツの振興を狙いとして、神奈川県相模原市に本拠地を置くJ3リーグの「SC相模原」にオフィシャルスポンサーとして協賛しています。2013年は、ホームゲーム1試合を「KYBスペシャルサポートマッチ」として開催しました。当日は、サポーターへ弁当や飲み物を販売したり、テーマパークのペアチケットなどが当たる大抽選会を行い、大変盛り上がりしました。これからも「SC相模原」のサポートを通じて、地域と一体となった活動を展開していきます。



試合前のピッチで

### 相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害の未然防止を図り、豊かな自然を守りながら快適な環境をつくるため、「野鳥観察」「自然観察」「河川生物調査」「夏休み環境教室」などを実施して、環境の変化を監視しています。相模工場は、会員として自然保護活動に参加しています。



自然観察会

### 日頃の感謝の気持ちをこめて ～土田公民館まつり協賛～

岐阜北工場、岐阜南工場、岐阜東工場がある可児市土田で毎年開催されている「土田公民館まつり」に協賛し、2013年度は大道芸人によるパフォーマンスを企画しました。さまざまな形に変化していくバルーンアートの風船をプレゼントしたり、大玉に乗りながらのジャグリングを披露するなど、小さなお子様からお年寄りまで、多くの近隣住民の方々に楽しんでいただくことができました。今後もコミュニケーションをより一層深められるよう、積極的に地域のイベントに参加していきます。



土田公民館まつりの様子

### 可児市環境フェスタへ出展

2014年2月、「未来へつなごう みんなで環境まちづくり」をスローガンに開催された「第14回 可児市環境フェスタ」に出展しました。熊谷工場で生産している剪定枝粉碎処理車「タウンビーパー」による剪定枝粉碎作業の実演や、粉碎されたチップの無料配布を行い、好評を得ました。また、さまざまな環境関連製品をパネル展示して、環境に対する取り組みを紹介しています。



粉碎作業の実演風景

### ダカールラリー協賛

2014年のダカールラリーにて、トヨタ車体チームランドクルーザー（以下TLC）に協賛をしました。ダカールラリーは、かつてパリ・ダカとして知られた過酷な耐久レースで、2009年より南米大陸に舞台を移しています。2014年1月4日から15日間の戦いが繰り広げられ、TLCは市販部門で3年ぶり14回目の優勝を果たしました。KYBのショックアブソーバは大会期間中ノートラブルで、その性能を立証することができました。



### KYBスタジアム/テニスコート オープン

2014年4月より、岐阜県可児市運動公園スタジアムおよびテニスコートにおけるネーミングライツを開始しました。愛称「KYBスタジアム」は岐阜県初の全面人工芝となっており、野球、ソフトボール、サッカーなどさまざまな目的に使用することができます。また「KYBテニスコート」は1年を通してナイターを利用していただくことができます。1943年に岐阜に工場を設立し、地域社会に支えられ70余年。これからも地域社会/スポーツ振興などに貢献していきます。



KYBスタジアムの正面入り口

### 北米スノーモービルレースに協賛

北米で熱狂的な人気を誇るスノーモービルレースでもKYBの振動制御技術が生かされています。トップ選手とのスポンサー契約のほか、多くのチームマシンへ製品を提供しています。2014年2月に行われたスノークロス選手権初戦のカナダラウンドでは、KYBサポートチームライダーのヨハン・リッドマンとトラビス・ミュラーが優勝しました。



## 地域社会のために

### 社会支援活動

#### インドネシア人研修生への冬物衣料寄付

日本・インドネシア経済連携協定に基づき、多くのインドネシア人看護師・介護福祉士候補者が資格取得を目指して、日本で研修をしています。寒い日本の冬を快適に過ごすため、一般財団法人日本インドネシア協会より冬物衣料寄付要請がありました。着られなくなったり不要になった冬物衣料の寄付をKYB社内呼びかけ、数多くのコート、ジャケット、セーターやマフラーなどの冬物衣料を寄付しました。特に女性社員から多くの衣料が集まり、インドネシア人研修生の日本での生活を暖かいものにすることができました。



冬物衣料を手にする研修生

#### お世話になったマレーシア社会への恩返し KMSB(マレーシア)

設立30周年を迎えたKMSBでは記念事業の一環として、マレーシア国内で販売する市販のショックアブソーバ売上1本につき0.10RM(マレーシア・リングギット)を慈善団体に寄付するキャンペーンを実施しました。各ディーラー・小売店の皆様の協力もあり、最終的に100,000RM(約310万円)をブディマス・チャリティ基金という孤児院に寄付することができました。そのほか、計8つの慈善団体へも同様の寄付を行い、本チャリティ事業の締めくくりとしました。

30年間の感謝の気持ちをことうり形で還元できたことを大変喜ばしく思います。今後もさまざまな形でマレーシア社会に貢献できるよう取り組んでいきます。



マレーシア中部地区慈善団体への寄付金進呈

#### 中国拠点(鎮江地区)における社会貢献活動 KCI、KIMZ、KHIZ(中国)

鎮江地区3社において①雇用の確保②2013年度企業所得税③KYBのモノづくり、現場管理の紹介という観点から以下のような表彰を受けました。

鎮江科技新城管理委員会より  
「2013年度工業企業貢献度TOP10企業」(KCI(代表))  
「2013年度安全生産活動優秀企業」(KIMZ・KHIZ)  
鎮江新区工会、安監局より  
「2013年度安全衛生優秀企業」(KIMZ・KHIZ)

このほかに上海華鐘殿による「農村に希望小学校」をつくるための募金活動に協力しています。

また2013年秋にはKIMZにおいて従業員およびその家族を対象とした「オープンハウス」を開催しました。これからも企業活動を通じ社会・地域に貢献していきます。

※KCIは中国事業の統括会社です。

「2013年度工業企業貢献度TOP10企業」受賞トロフィー



KIMZのオープンハウス

#### 米インディアナ州日本語学校への寄付 KAC(アメリカ)

アメリカ インディアナにあるKACにはKYB駐在員が14名在籍しています。駐在員の子女は月曜日から金曜日までを「現地校」に通い、土曜日は「日本語学校」で、国語と算数(数学)を主に学んでいます。日本語学校は幼稚部・小学部・中学部・高等部まであり約330名の生徒が在籍しています。KACは日本語学校への寄付を毎年行っています。

## 従業員とともに

### 人財の活用と職場環境づくり

#### 基本的な考え方

ライフスタイルの変化や働き方の多様性を生かしたより効率的な人財活用を促すため、働きやすい人事・福利厚生制度や職場環境づくりに取り組んでいます。これらの課題について、労使による人事・福利厚生制度検討委員会を設置し、従業員の多様なニーズにマッチした働きやすい職場環境づくりを目指し、「ワークライフバランスの推進」「仕事と家庭の両立のための支援制度」「社宅独身寮の有効活用」「選択制福利厚生制度(カフェテリアプラン)などのテーマの検討を進めています。

#### 健康管理セミナー

各事業所では、毎年、秋の全国労働衛生週間に合わせて健康セミナーを開催し、従業員の健康づくりの応援をしています。2013年度はメタボ対策として運動実践を取り上げました。普段あまり動かさない筋肉を使ったり、ガチガチに固まった首や肩周辺をほぐしたりと、リラックスした時間を過ごしました。

メンタルセミナーも随時開催しています。メンタルヘルス活動については、KYBの取り組みが厚生労働省HPに紹介されていますので、詳細はwebをご覧ください。

<http://kokoro.mhlw.go.jp/case/hukki/009.html>



#### 技能五輪全国大会に参加

技能五輪全国大会は、23歳以下の国内青年技能者に「モノづくり」の大切さや楽しさを知ってもらうことを目標に開催されています。第51回技能五輪全国大会は、幕張メッセほか14会場で開催され、全国から1,127名の選手が参加し40種類の競技が行われました。旋盤職種には、人事本部人財育成センターの渡邊祐二が参加しました。技能五輪大会は高度技能者訓練教育として、若手の技能レベル向上の目標として有意義であり、継続的に参加していきます。



人財育成センター 渡邊 祐二

#### 新入社員研修

新入社員研修は、「活気あふれる企業風土」を共有し、達成することを目的に、グループ会社と一緒に学んでいます。

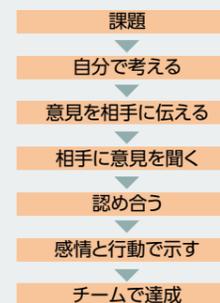
##### 1. 集合教育

KYBグループの新入社員が一堂に会し、「経営理念」「社会人心得」「安全教育」などをグループ討議をまじえて学んでいます。2013年度はKYBから79名、グループ会社から39名の合計118名が参加しました。



##### 2. 体験学習

「みんなで考えて協力し、チームで課題を解決する」「達成する喜び、連帯感を共有する」ための研修です。足柄の緑に囲まれた落ち着いた環境の中で毎年行っています。



#### VOICE

##### 新入社員研修を受けて

6か月という研修期間の中で、一番印象に残っているのは足柄研修です。足柄研修では、限られた時間の中で、仲間とともに課題を解決する難しさや解決できたときの達成感を実感することができ、一人ではなくグループで行動する楽しさ、厳しさを学べたので一番印象的でした。



HC事業本部 中野 朝香  
AC事業本部 田中 翔

## 従業員とともに

### 人財育成と技術力の向上

#### LT50活動

「LT50活動」はモノづくりのリードタイムを50%削減する活動です。生産の方法だけでなく、部品の調達やお客様への輸送、業務効率の向上も含まれています。原価低減、品質向上さらには環境保全や安全につながる活動です。

#### 改善例 1

##### ● 旧型補給製品の在庫低減と見える化

##### 改善前

ライン側に大型自動倉庫があり、約180本の旧型補給製品の在庫が発生していました。



必要在庫見直しと基準数で生産できるしくみをつくった。

##### 改善後

大型自動倉庫2台の撤去と、紙パイプの棚作製によるスペース低減で消費電力削減と完成品在庫を80本に低減できました。



#### 改善例 2

##### ● 個別溶接工程の在庫低減

##### 改善前

一時置き場の収納棚に1,210個の溶接部品在庫を持っていました。



しくみを変更し、収容棚の撤去した。

##### 改善後

引き取りかんばんによる個別溶接部品の供給レーン化で、中間在庫ゼロとスペース1.08m<sup>2</sup>を確保。部品供給者の取り扱い重量を軽減できました。



#### KYBグローバル生産会議

2013年11月13日から15日にかけて、岐阜北工場においてKYBグローバル生産会議が開催されました。環境や安全、生産、品質をテーマとして、関係会社も含めた海外19拠点から45名が参加しました。環境では、CO<sub>2</sub>排出量低減活動を目的とした電力消費モニターの設定による改善事例や、安全面では設備の本質安全化や従業員の安全意識高揚活動の事例などについて活発な意見や質問などが出され、環境と安全に関する理解を深めました。

#### グローバル技術者研修

海外生産拠点の技術レベル向上を目指して、2006年からグローバル技術者研修を実施しています。2013年度は7カ国12拠点から36名が参加し、累計で268名の技術者が工場の中核として活躍しています。

本研修は、「対話方式の講義」「体感実習」「先進工場の見学」を柱に、1カ月をかけて基礎技術を習得し、自拠点の改善案を作成して帰国後に実施します。参加者全員でアイデアを出し合い、ノウハウを共有してグループカアップを図りました。今後も本研修を継続し、海外拠点のモノづくり力強化を推進します。



#### 自動車用ダンパ交換技能大会開催 KTS(中国)

中国の販売会社であるKTSでは、2013年3月、自動車修理を行うメカニックの技術向上のため、上海市内の修理工場を対象にダンパ交換技能大会を行いました。8つの修理工場から2名ずつ参加し、ショックアブソーバ交換作業の正確性を競いました。日本からプロのメカニックを講師として招き、大会の競技判定をしていただきました。競技後、講師の方に作業実演をお願いした際には、参加したメカニックたちの真剣な眼差しが印象的でした。こうした活動を今後も続け、中国のショックアブソーバ交換技術が安定向上することを願っています。



講師の実演を食い入るように見るメカニック参加者

### 従業員コミュニケーション

#### スポーツ・文化交流大会

スポーツ・文化交流大会が熊谷で開催され、約700名が参加しました。前日までの嵐がまるで嘘のようにおさまり、気持ちのよい秋の一日を楽しむことができました。フットサル競技にはタイ、ベトナム、インドネシア、ドイツ・イギリス連合の海外4チームが参加し、国内12チームとともに競い合いました。

KYBグループとの親睦をしっかりと深めました。



フットサル決勝

#### 第6回KYBロボットコンテスト開催

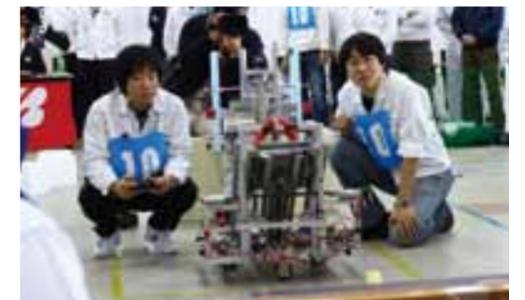
2013年11月16日に岐阜南工場にて第6回「KYBロボットコンテスト」が開催されました。今年の課題は、コース上に置いてある箱を掴んで所定の場所へ積み上げた後、輪投げをして点数を競うものです。各チームとも昨年うまく輪を投げられなかった部分をしっかり改善し、ハイレベルな戦いとなりました。国内外のグループ各社から計19チームが参加し、KAC(アメリカ)チームが二連覇を成し遂げました。経営トップをはじめ、従業員とその家族を合わせて約430名の来場者となり、盛り上がりを見せました。



箱積み競技



輪投げ競技



## 従業員とともに

### 安全で働きやすい職場づくり

#### 「安全はすべてに優先」を掲げ活動

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一体となって活動を行ってきました。安全担当役員を委員長とした全社の「環境安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となって、具体的な活動を展開しています。その活動としてはOSHMSの構築を重点テーマとしてリスクアセスメント(作業の危険度合の評価)、各職制による安全巡回、事業所間および部署間での安全相互点検などの活動を展開しています。その結果2012年度と比較し、2013年度の休業災害は約90%低減させることができました。また各事業所から安全実務者を任命し、安全衛生専門部会を組織し、全社的な施策の検討、規定、基準類の整備なども行っています。今後もPDCAのサイクルを回しつつ労働災害ゼロに向け継続して活動を行っていきます。

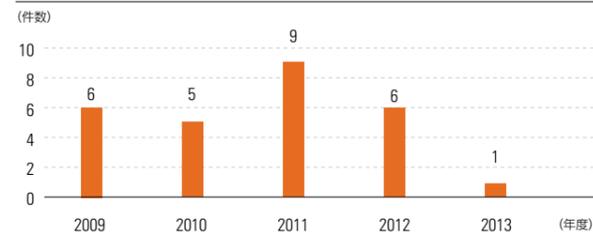


相模工場の安全衛生委員会

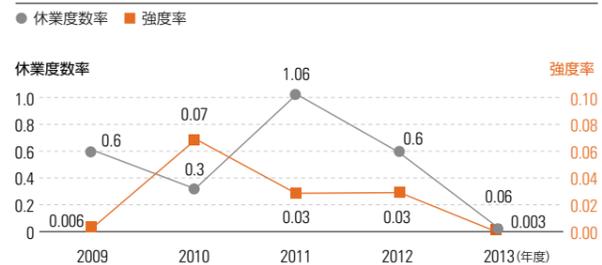


全社の安全衛生専門部会

#### 休業件数



#### 休業度数率・強度率



※休業度数率: 災害の頻度を表します(100万労働延べ時間当たりの休業災害者数)  
 ※強度率: 災害の程度を表します(1,000労働延べ時間当たりの労働損失日数)

#### 安全体感教育 KYBT(タイ)

安全体感道場の教育は、全従業員の危険感受性向上の決め手として、29の安全体感機器および器具からなる安全体感シミュレータを使って労働災害を擬似的に体感しています。この体感教育により、機械取扱上の注意点および危険箇所を効果的に教えられようになりました。そして、危険の怖さを肌で感じ、「何が危ないか」を気づかせて、考えられる工夫をしています。また、省エネ・環境保全の知識と意識の向上教育も併せて積極的に行っています。



教育終了後の確認テストを受ける受講者

道場入り口にある「安全の門」

#### VOICE

##### 安全体感訓練道場の講師として

私は、2011年4月の安全体感訓練道場設立から講師役に従事しています。新入社員に対しては危険に対する感受性を、中堅社員へは忘れていた感受性を復活させ、管理職へは危険源を探す目を養ってもらうことを念頭に、いつも体感教育を実施しています。安全意識の高揚を図るべく「間違い探し」などの新しい項目も加え、さまざまな工夫をしています。現在は全従業員が繰り返しとなる3回目の体感教育を進めています。また近隣の企業、学校等にも道場を解放し地域の安全活動にも協力しています。



KYB-YS 青木 徳雄

#### 設備本質安全推進および従業員の安全意識高揚を目指して

2013年10月30日~11月1日(3日間)にかけて、第72回全国産業安全衛生大会が大阪で開催され、全国から労働安全衛生関係者約12,000名が参加しました。

この大会で、KYBから3名が研究発表を行い、それぞれの事業所において展開されている安全衛生活動を全国に紹介しました。



発表テーマ  
「設備本質安全推進および従業員の安全意識高揚を目指して」

相模工場 佐藤 哲男



発表テーマ  
「守れるルールづくり」

日本自動車部品工業会  
安全衛生分科会  
調査・研究W.G-D代表  
岐阜南工場 高木 直生

#### VOICE

##### リスクとの共存による生産活動

当日は、800名に及ぶ聴講者の中、安全重点管理事業所として岐阜南地区の安全衛生活動について発表致しました。「人と設備の生産活動において、リスクは必ず存在し、その重要性を認識し、共存することが大切である」ことを力説し、大変な好評を博しました。以後、多数の会社様よりお問い合わせをいただきました。今後も安全模範事業場を目指し活動を展開していきます。



発表テーマ  
「リスクアセスメント評価の見直しを軸にした安全衛生活動」

岐阜南工場 小島 隆

#### 本社地震総合消防訓練

2013年9月、KYB本社において、地震総合消防訓練を実施しました。本訓練はKYBが入居している世界貿易センタービルの合同訓練と連携し行いました。身体防護、非常階段による避難、水消火器による消火訓練、AED訓練用人形を使用した、取り扱い方法を学び、いざというときに備えています。これからも訓練を通じ、従業員の防火、防災の意識を高めていきます。



AED・消火訓練の様子

#### VOICE

##### 「安全優良職長厚生労働大臣顕彰」受賞

「労働災害ゼロ」はKYBの願いであり、家族の願いです。製造に関わる者として、極めて重要で、永遠の課題と考え活動してきました。「自分の身は、自分で守る」は本能ではありますが、「決めごとをつくり、守り、継続を指導する」ことを私がやるべき基本と心得ています。今後もOSHMS活動を通じて、仕事に潜むリスクを洗い出し、それを作業者と話し合うことで安全性の向上と意識の共有化を図っていきます。



KYBモーターサイクル  
サスペンション  
丹羽 和夫